

「人生100歳時代の設計図」を考えるキックオフシンポジウムの開催

神奈川県政策局政策部総合政策課 井出 博晶

「人生100歳時代の設計図」について、県民一人ひとりに自分のこととしてその重要性を考えてもらうとともに、その議論を拓げていくことを目的に、平成28年7月24日、議論のスタートとなる「キックオフシンポジウム」を開催した。当日のシンポジウムの状況等を報告する。

1. 開催趣旨

健康寿命が延びる中で、県民一人ひとりが100歳をひとつのゴールとして、そこから逆算して人生の設計図を描いていくことが大事になると考え、「人生100歳時代の設計図」というテーマを問題提起した。

県民一人ひとりに自分のこととしてその重要性を考えてもらうとともに、このシンポジウムをきっかけに、県民と議論を重ねていくことを目的に開催した。

2. 開催日時・場所

平成28年7月24日（日曜日）

13時30分～15時30分

横浜市教育会館（定員：500名）

（横浜市西区紅葉ヶ丘53番地）

3. プログラム

第一部 基調講演

- ・神奈川県知事 黒岩 祐治

講演テーマ「人生100歳時代の設計図」

- ・プロスキーヤー 三浦 雄一郎

講演テーマ「人生はいつも『今から』～
一步一步登りつづければ頂上に立てる」

第二部 パネルディスカッション

- ・パネリスト

加藤 忠相

（株式会社あおいけあ 代表取締役社長）

塩澤 修平

（慶應義塾大学 経済学部 教授）

藤原 瑠美

（ホスピタリティ☆プラネット 代表）

黒岩 祐治

（神奈川県知事）

- ・コーディネーター

原 良枝

（フリーアナウンサー）

4. 概要

(1) 第一部 基調講演

黒岩知事より「人生100歳時代の設計図」についての説明があり、三浦雄一郎氏より、高齢になっても、あきらめずに挑戦し続けることの大切さについて、語っていただいた。

- 黒岩知事「人生100歳時代の設計図」



[主な内容]

- ・人生100歳時代をイメージして、県民一人ひとりが、人生の設計図を自分自身で考えていく必要、また社会としてもそれに応えられるような設計図を用意する必要があるのではないか。
- ・このことは、みんなで考えることが大事なので、「人生100歳時代の設計図」というテーマを問題提起した。
- ・今年度は、皆さんと率直に議論し、語り合い、考えていくことを進めていきたい。

- 三浦雄一郎氏「人生はいつも『今から』～
一步一步登りつづければ頂上に立てる」



(主な講演内容)

- ・ エベレストを目指そうと思いついたのは、65歳のとき。
- ・ 当時、狭心症などの病気を患っていたが、エベレスト登頂という目標を持って、積極的にトレーニングを積み重ねた結果、体の健康状態が良くなった。
- ・ 失敗をしたり、病気をしたり、けがをしたら、これを何とか治そう、治して元気になろう、もっと元気になってみようとする気持ちが大切。
- ・ できる、できないは別としても、何か目標を持って、挑戦し続けることが大事。

(2) 第二部 パネルディスカッション

二つのテーマをもとに、学識者や専門家の方に自らの体験や考えを語っていただき、高齢者の社会参加のあり方などについて議論を深めた。



[テーマ①]

高齢者はどのように生きて行くのか。

(主な意見)

- ・ 自分に合った座標軸というものと目標を持ちながら、小さくコツコツとやっていくことが大事である。
- ・ 喜んで社会で楽しく過ごせるようなことをつくっていくことが、今求められている社

会なのではないかと思う。

- ・ 自分はこう生きたいということをサポートできる力強い社会体制をつくっていくことが、第二の人生には必要である。
- ・ 遊び心を持って人生を楽しむことが、心身ともに活性化するだけでなく、経済社会の活性化にもつながる。

[テーマ②]

高齢者が社会で活躍するためには社会として何が必要か。県としての役割とは。

(主な意見)

- ・ どうやったら、自分でものごとをしやすい環境になるかを考えることが大事。
- ・ 人とのつながり、社会参加が重要。そのためには、社会参加の場（誰かに会える、自分を必要としている仕事が見つかるなど）の提供が必要。
- ・ 将来、高齢者を少数の若者で支えなければならぬという不安があるが、発想を転換し、高齢者を活用することで、安心感と社会参加の両方を融合する仕組みをつくったらどうか。
- ・ 介護ロボット等、高齢社会を支える産業の育成などにより、病気などのさまざまなリスクを社会全体で分担、負担すること。
- ・ 地域でお互い助け合う、互助を育てるという考え方が必要なのでは。

最後に、黒岩知事より、「人生100歳時代の設計図」を共通のテーマに、県民と黒岩知事との“対話の広場”で、これから各地域を回って、さらに議論を深めていきたいとのメッセージがあった。

5. まとめ

来場者アンケートでは、「地域で貢献していきたい」、「現役世代からの地域参加を進めるべき」、「学び直しなど、生涯学習を充実する必要がある」など、多くの意見をいただいた。

来場者の方々にとって、今回のシンポジウムが「今後の人生について考えるきっかけ」となれば、幸いである。